

[illegible]

事に参加できるとい
に格付けが低い
に格付けされないよ
も工事成績認定から
けるなど、技術力重
い。

現直し後の発注標準

WTO対応

A+B

B+C

C+D

技術的難易度 VI

技術評価点数は小さいが経営事項評価点数が高いため便所
企業が、下限値の設定によりD
等級となる

(※すべて例示)

(総合評価)×(部局係数)

主幹・密着点對に下限値を設定し、すべての等級に下限値を設けず、C等級企業の縮点数がゼロ点の場合はD等級に格付けする。も検討する。

を評価できやうになる。
優良な中小企業の新規
参入を促すため、地方自
治体など他の発注機関の
工事成績を反映させるこ
件数を評価し、加算する。

発注者責任を一層明確にする。

は、橋梁下部工分野で技る。

.....

企業排除が狙いで

企業の技術開発に対するインセンティブ（優遇措置）として、技術評価点の

改革の底流にあるのは、企業の技術力を中心とした支那の競争力向上を主眼とした政策である。これは、一層重なる競争環境の実現や不良在庫の削減、非効率の削減、より生産性の向上を主眼とした政策と並行して進められていく。これは、中国の競争力向上を主眼とした政策である。これは、一層重なる競争環境の実現や不良在庫の削減、非効率の削減、より生産性の向上を主眼とした政策と並行して進められていく。

また、工事分野別の評価を記入導入し、特定の工事分野で技術力が優れている企業の競争参加機会を拡大する。具体的に「インフラ」分野の「インフラと主要設備を運用・保守する」という分野に、インフラ分野の成績ランキングを公開し、インフラ分野の成績上位の企業に、インフラ分野の競争参加機会を拡大する。また、インフラ分野の成績上位の企業に、インフラ分野の競争参加機会を拡大する。

[illegible][illegible]

しかるに地方の中小企業から地方の中心、中小企業まで幅広く影響を与える可能性がある。

地産の大手ゼミが属する年輪、全国建設協会会員の多くが属する等級の競争環境が地方建設業界の競争環境に波及する可能性が大きい。

地方の大手ゼミが属する年輪、全国建設協会会員の多くが属する等級の競争環境が地方建設業界の競争環境に波及する可能性が大きい。

STANDARD ADDITION

良い仕事をした企業が受注機会を拡大するなど、企業の経営と努力が受注者の選定と適切に反映される仕組みを構築するため、▽上位等級を目指すインセンティブ（動機付け）▽技術力と経営力の適正なバランス▽新規参入者の促進▽等級に応じた品質確保の4点を表現する。

今後は、それぞれの方向性に基き「ベンチマーク」分析を実施した上で、12月上旬から2008年月上旬にかけて建設業の発注標準は、工事規模（金額）だけで区分しているため、技術力の

建設団体に説明し、意見を聴取する。企業評価部会が同2月にもまとめる提言（発表会：09・10月の総務参加資格検査から適用する方針だが、具体的な手法は、実データに基づく分析を実施）決める。

技術難易度に応じ等級を拡大重複

発注標準

発注標準

Figure 1 illustrates the comparison of evaluation methods for general civil engineering projects. The figure is divided into three main sections: 'Current Evaluation Method', 'WTO Target', and 'Evaluation Method After Visioning'.

Current Evaluation Method: A scatter plot showing the relationship between 'Technical Difficulty' (I to V) and 'Current Price' (0.6B, 3.0B, 7.2B). The plot is divided into five regions (I to V) based on technical difficulty. The current price levels are indicated on the y-axis.

WTO Target: A scatter plot showing the relationship between 'Technical Difficulty' (I to V) and 'Price' (B, 2B, 3B, 4B, 5B, 6B, 7B, 8B, 9B, 10B). The plot is divided into five regions (I to V) based on technical difficulty. The price levels are indicated on the y-axis.

Evaluation Method After Visioning: A scatter plot showing the relationship between 'Technical Difficulty' (I to V) and 'Evaluation Points' (A, B, C, D). The plot is divided into five regions (I to V) based on technical difficulty. The evaluation points are indicated on the y-axis.

The figure shows a flow from the 'Current Evaluation Method' to the 'WTO Target' and then to the 'Evaluation Method After Visioning'. The 'WTO Target' section includes a legend for 'Price' (B, 2B, 3B, 4B, 5B, 6B, 7B, 8B, 9B, 10B) and a legend for 'Evaluation Points' (A, B, C, D).

すべての案を採用した場合の技術評価点数の算定式の例(数値は技術評価点数=)

$$\begin{aligned} & \Sigma [(成績評定-70) \times (\text{技術的難易度}) \times \text{Log}(工事規模) \times \\ & \quad \times (\text{調整係数}) \times (\text{直近係数})] \\ & + \Sigma [(\text{技術的難易度}) \times \text{Log}(工事規模) \times \\ & \quad \times (\text{調整係数}) \times (\text{直近係数})] \\ & + \Sigma [(成績評定-70) \times \text{Log}(工事規模) \times (\text{部局係数}) \times (\text{直近係数})] \\ & + (\text{技術開発}) \end{aligned}$$

主観点数の低い企業が経営事項評価点数(客観点)だけで上位等級に格付けされる場合があるため、各等級に対し、主観点と客観点数のそれぞれ下下限値を設ける。

ペーパーカンパニーなど工実実績のない企業は、主観点数の算定に大きく影響するため、その級別

主観点数の低いため、二期が長いという不利といわれる指摘があり、二期から、工事成績の悪化による降格を免れたい点数を抽出して、加えて、工事成績が悪化を免除する級数を65点以下とする。

この70点以上とする。

工事成績平均点は約70点となっており、工事成績を超過するものは、等級にない点を超過する級が狙われ、また、この見直し案は主観点数の算定に大きく影響するため、その級別